

水生生物の分布，生態調査 - 淡水魚類の分布と希少魚類の繁殖基礎試験

宮本敦史・藤吉利彦

目的

河川に生息する魚類を対象に採捕調査および潜水目視調査を行い，県内の河川魚類相を把握する。また，県内で個体数あるいは分布域が減少していると考えられる淡水魚を対象に，人工繁殖の基礎技術となるデータの収集を行う。

方法

1. 河川魚類調査

三重県北中勢地域を流れる7水系13河川において投網，タモ網，もんどりをを用いた採捕調査と潜水目視調査を行い，各河川における魚類の分布状況を調べた。採捕個体はジフェノキシエタノール溶液で麻酔後，種同定を行った。潜水目視調査では種同定が困難な場合は属レベルの査定にとどめた。また，北勢県民局から，鈴鹿川における堰堤の存在がアユの遡上に与える影響に関する調査依頼があり，4，5月に鈴鹿川第二頭首工付近でアユの遡上状況調査を行った。

2. 希少魚繁殖基礎試験

アカザ，カワヒガイ，アブラボテ，シロヒレタビラ，カワバタモロコの希少魚5魚種について，親魚養成技術の確立を目的とした長期飼育試験を試みた。飼育魚はアクリル水槽（水量約0.2t）に収容し，飼育水は脱塩素水道水の循環濾過式とした。餌は配合飼料に餌付け可能な魚種は餌付けを行い，その他は冷凍赤虫を与えた。5魚種のうち，カワヒガイ飼育水槽にはドブガイを投入し，自然採卵を試みた。

結果

1. 河川魚類調査

分布を確認した魚種を水系ごとに表1に示した。このうち環境庁版レッドリスト，水産庁版レッドデータブック，自然のレッドデータブック三重のいずれかに記載されている希少魚種はスナヤツメ，カワヒガイ，ズナガニゴイ，アジメドジョウ，スジシマドジョウ小型種東海型，ネコギギ，アカザ，メダカ，アユカケの9魚種であった。

鈴鹿川のアユ遡上状況は，4月23日，5月2，29日の3回，現地調査を行った結果，4月23日と5月2日に鈴鹿川第二頭首工下流で10尾以内のアユを採捕したにとどまり，川底の石にもアユのはみあとがほとんどみられなかったことから，5月までの遡上量はかなり少ないものと推測された。魚道は幅100m程度の堰堤の中央部に幅約2m程度の階段式魚道があるだけであり，さらに，魚道の下流側入り口は1m程度の大きな落差があり，アユがこの頭首工を遡上するのはかなり困難であると考えられた。また，5月29日は魚道に全く水が流れておらず，アユの遡上は不可能な状態となっていた。

2. 希少魚繁殖基礎試験

長期飼育を試みた5種のうち，カワヒガイ以外はほとんどへい死もなく推移した。アカザには冷凍赤虫を給餌したが，その他4魚種には配合飼料を与え，特に大きな問題は生じなかった。カワバタモロコは約5年間，アカザは約4年間飼育を継続中である。

カワヒガイは4月下旬から水温を22℃に保持した水槽内で飼育し，二枚貝を投入したところ，直ちに二枚貝に関心を示すなどの産卵行動がみられた。しかし，4月中旬頃から発生した白点病が悪化し，実験を中止して塩水浴を試みたが，卵を得ることはできなかった。

表1 河川魚類相調査結果

	員 弁 川 水 系	鈴 鹿 川 水 系	雲 出 川 水 系	櫛 田 川 水 系	笹 笛 川 水 系	大 堀 川 水 系	宮 川 水 系
スナヤツメ		○					
ウナギ		○					○
コイ		○					
ギンブナ					○		
フナ属		○	○				
ヤリタナゴ					○		
タイリクバラタナゴ					○	○	
オイカワ	○	○	○		○		○
カワムツA型					○		
カワムツB型		○	○				
カワムツ(型不詳)	○	○	○				○
タカハヤ		○	○				
ヒメハヤ属	○		○				○
カワヒガイ					○		
タモロコ		○			○		
カマツカ			○		○		○
ズナガニゴイ			○				
ドジョウ	○	○					
アジメドジョウ							○
シマドジョウ		○					
スジシマドジョウ小型種東海型					○		
シマドジョウ属	○	○	○				○
ネコギギ			○				
ナマズ			○				○
アカザ	○	○	○				○
アユ		○	○				○
アマゴ			○				
メダカ					○		
アユカケ		○					
カジカ属	○	○					○
ブルーギル		○					
オオクチバス			○				
ボラ		○					
ミズハゼ				○			
ドンコ	○						
スミウキゴリ		○					
ビリンゴ		○					
マハゼ		○					
ボウズハゼ		○					○
ゴクラクハゼ		○		○			
トウヨシノボリ		○					
カワヨシノボリ		○	○				
ヨシノボリ属	○	○	○				○
スマチチブ		○					
チチブ				○			